

ニュース和歌山 2020 年 9 月 23 日号の 「おしえて！マイドクター Q&A」に掲載。

Q アルツハイマー病とレビー小体型 認知症はどう違うのですか？



《回答者》

◆脳神経外科

貴志川リハビリ
テーション病院
亀井 一郎院長



認知症の症状に
は大別して、「中核
症状（基本となる症
状）」と、そこから派生して出現
する「周辺症状」があります。

「中核症状」は、記憶障害、見
当識障害（時や場所がわからな
い）、思考力低下など、まさに認
知症における基本症状をい
います。「周辺症状」は、中核症状
のために周りの人とうまくコ
ミュニケーションが取れず、あ
るいは軋轢^{あつれき}が生じ、これらをカ
バーするための作話（うそを言
っている意識はないが、つじつ
まを合わせようと作り話をす
る）や妄想（嫉妬妄想など）、攻
撃的行動が見られるようにな
り、さらには方向がわからなく

なったり、目的を忘れてしまっ
て徘徊するようになることを
指します。

アルツハイマー病では、これ
らの症状が徐々に進行します。
一方、レビー小体型認知症で
は、物忘れ症状に加えて、幻視
（そこに子どもたちが来いて
いる」「天井を虫が走っている」
や金縛り（眠っているときに悪
い夢を見て体が動かないまま
大声を出す）等に加え、パーキ
ンソン病のような症状（動きが
遅い、手がふるえる）が現れる
ようになります。

疾患の違いをよく認識し、気
になる症状があれば脳神経外
科等での確な診断を受け、対応
するようにならう。